

グリーンサークル 46号

クローズアップ

川添 修
多摩グリーンボランティア森木会の
活動 20 年を振り返って
小柳 一成

多摩市みどりのかわら版

～クローズアップ～

多摩グリーンボランティア森木会の 活動 20 年を振り返って

多摩グリーンボランティア森木会 会長 川添 修



ミヤマナルコユリ

ご挨拶

私たちが活動する多摩グリーンボランティア森木会（以下、多摩GV森木会 と記します。）は、平成 13 年（2001 年）9 月に創設され、活動 20 周年を迎えました。多摩市をはじめとして、多くの皆様のご支援とご協力により、素晴らしい仲間づくりを進めながら、現在、市内 13 箇所公園緑地の雑木林で、延べ 388 名の方が参加する保全育成の活動を続けることができました。

ご支援・ご協力を頂いている皆様と活動に参加して頂いている会員の皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

多摩GV森木会活動の始まり

平成 12 年（2000 年）頃、多摩市の公園緑地に残された雑木林は、多摩市の財政状況などにより管理が行き届かず、不法投棄や林床のアズマネザサ等が繁茂しすぎて荒れた放棄二次林の状況でした。当時、多摩市のみどりの審議会委員を務めていた 3 名がこの状況を憂い、雑木林の環境改善を多摩市と協働して図ることとしました。でも 3 名だけでは不可能なので、環境改善の活動に協力して頂ける仲間づくりから始めることとしました。仲間づくりでは、多摩市の雑木林の特徴を知るとともに、改善活動の方法を知ってもらうために”グリーンボランティアの活動講座”を開催することとしました。

また、活動団体の名前は、雑木林の木々の保全を行う仲間の活動であることから親睦ではなく、森の木ということで森木会（しんぼくかい）と称することとしました。こうして始まったのが多摩GV森木会の活動です。

活動を始めた当初、アズマネザサ等に覆われ単純層の鬱そうとしていた雑木林は、それぞれの環境特性に配慮しつつ順応的な林創りが計画的に進められてきた

ことで、生き物の多様性が豊かな多層構造の環境を創出し、維持してきております。

仲間づくり(グリーンボランティア講座) 20 年の成果

・グリーンボランティア講座の始まり

多摩GV森木会の活動を始めることとした翌年の平成 14 年 2 月から、一緒に活動をして頂ける仲間づくりのために、雑木林の保全育成に必要な知識を得てもらうための「多摩市グリーンボランティア講座（年 10 回の講座）」を多摩市と協働して実施しました。

この第 1 期講座は、たいへんな人気で 40 名募集のところ 79 名の応募があり抽選での講座開始となりました。雑木林の保全育成活動を始めた翌年（平成 15 年）頃から、鎌や手鋸、鉋等を活用する手作業だけでは、活動が大変なことから、活動者から刈払機やチェーンソーの動力機械を活用したいとの要望が多く寄せられるようになったので、平成 17 年から刈払機やチェーンソーの動力機械を安全に使うための講座を始めました。このことから、雑木林の特徴を知るとともに、安全に自分の身体を使って鎌や手鋸、鉋等の作業方法を習得する講座を初級講座（自分のために）、安全な動力機械による作業方法や消防署による上級救命救急方法、活動のリスクマネジメントやリーダーシップ等の講習を中級講座（仲間のために）、と位置づけ、より幅広い知識を得て頂く講座の構成としました。



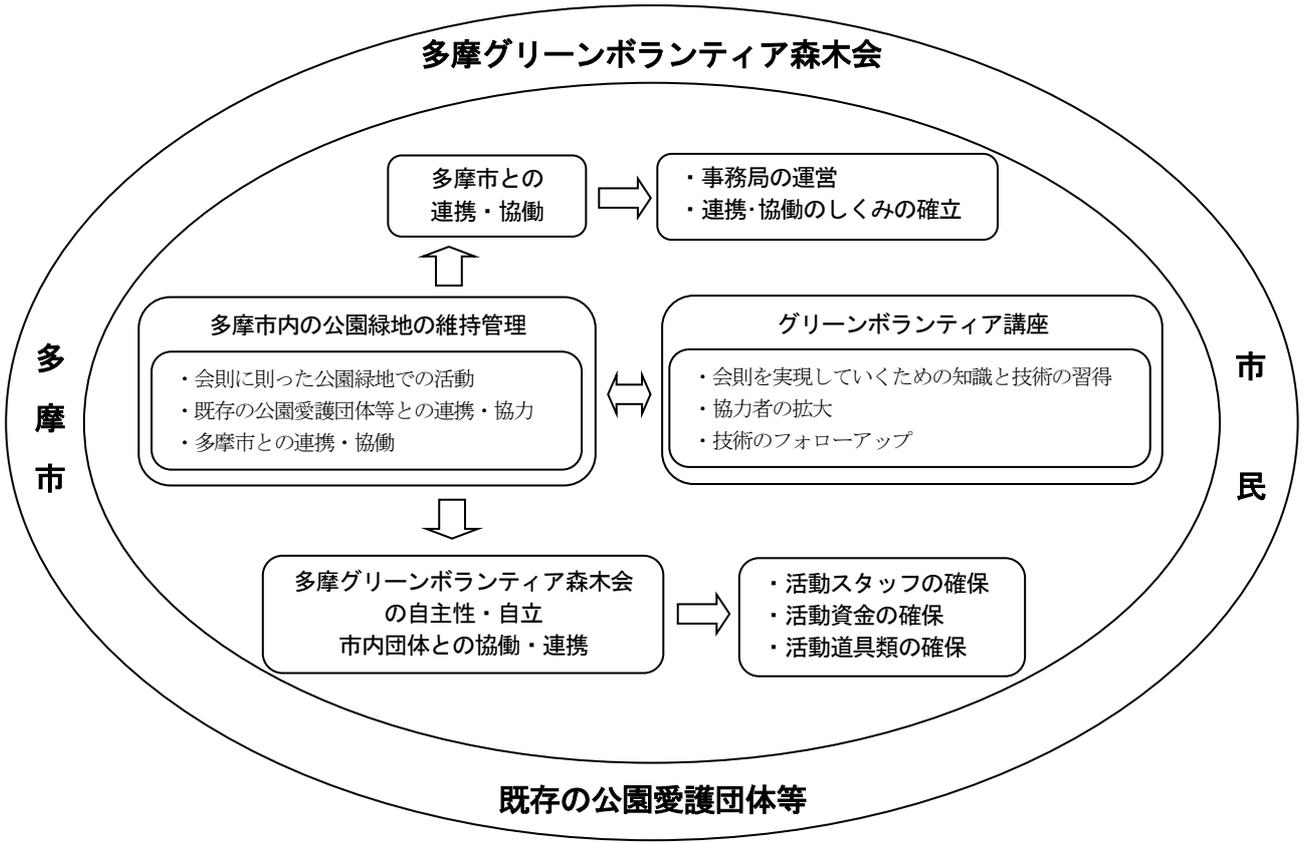
活動前のよこやまの道風景
(1999 年 9 月)



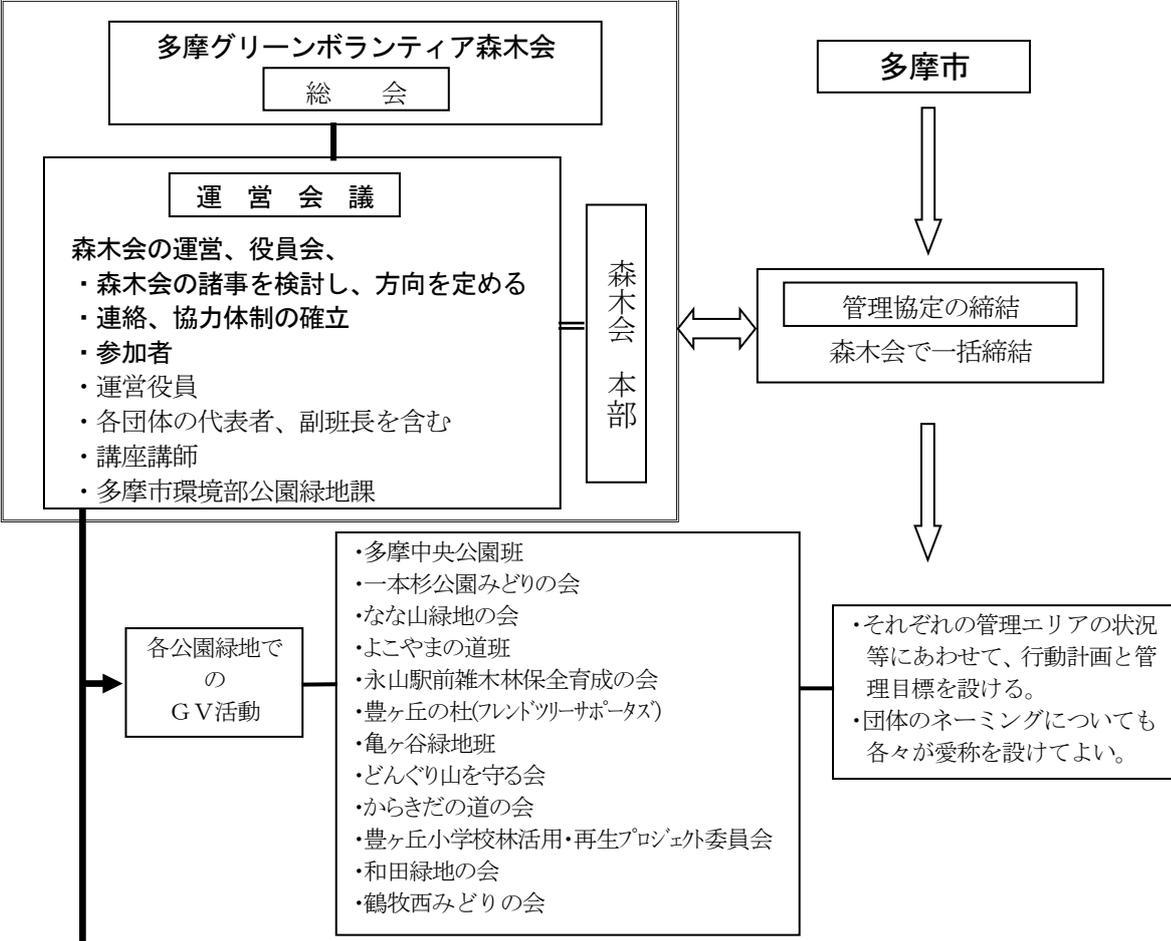
活動後のよこやまの道風景
(2015 年 5 月)

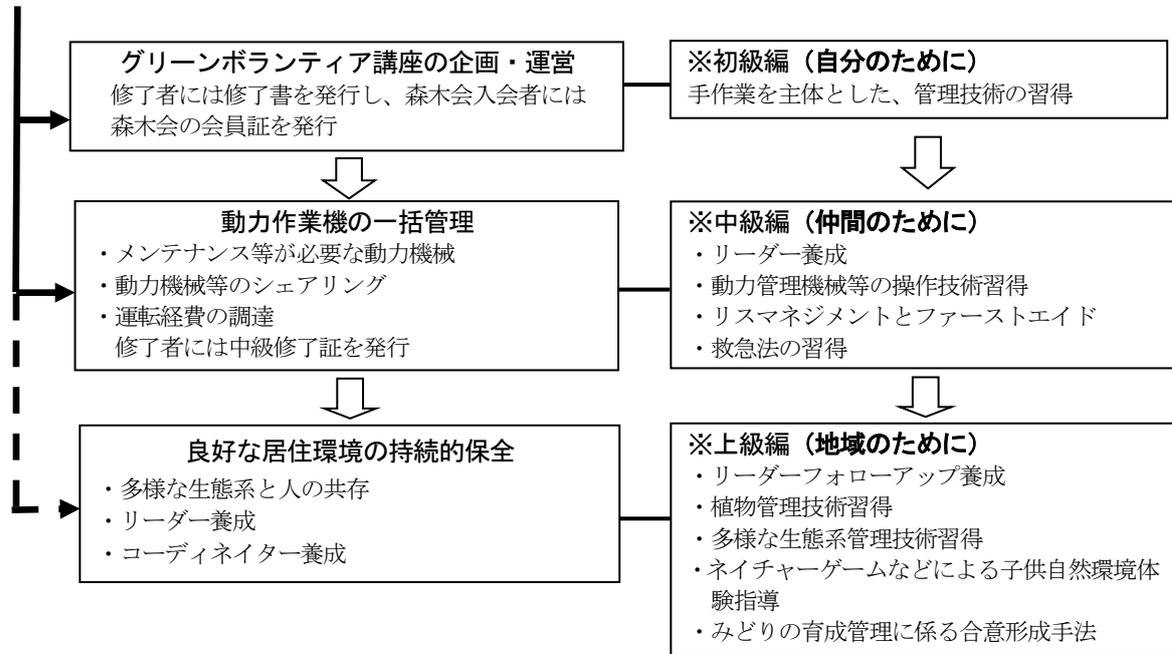
多摩GV森木会の運営のしくみ

多摩市の公園・緑地等のみどりのみず



多摩市GV講座 構成・運営のしくみ





・初級講座

講座の初年度は、多摩G V森木会の創始者の一人である内城道興さんが、「雑木林をつくる」という本を倉本宣先生と共著されていたので、内城さんの知識の中で講座を進めて頂きました。しかし残念なことに講座の途中でお亡くなりになってしまったので、もう一人の創始者である恵泉女学園大学教授の新妻昭夫先生や多摩市公園緑地課、講座の講師を担っていただいた赤羽誠さん等と話し合っ、私が会長を引き受けるとともに、講座を進めるにあたって講座資料を作成することとしました。

この講座資料は、当時、講師して頂いていた清水武志郎さんなど講座関係者と、話し合いながら多摩G V森木会の講座としてどのようなことを受講者にお伝えしていくか設定していきました。その成果が、現在、講座で使用しているテキストです。このテキストを、多摩市の公園緑地の雑木林の保全育成に適応させていくために、毎年少しずつ改訂ししながら、年10回の充実した講座となるよう構成してきました。（表-1 参照）

このテキストの行間には、多摩市の雑木林の保全育成への思いが詰まっていることから、テキストは受講者のみへの配布として、テキストだけを配布や

販売することはしておりません。興味のある方は、ぜひ受講をお勧めいたします。受講料は、年間10回の講座で、3,000円です。

平成14年（2002年）に始めた初級講座は、この20年間で受講者619人、修了者494人、多摩G V森木会への入会者が420人となりました。（表-2 参照）

初級講座は、12月に多摩市長も参加して入講式を行い、1月から10月まで、毎月第1土曜日に行っています。この講座の日は、多摩市では20年間で、とても天気の良い日が続いています。

台風などの日は休講としていますが、多少の雨の日でも雨の日メニューの講座を行い、雨の中の雑木林体験もして頂いています。休講となった場合は、補講日を設けてその日できなかったことを行っています。

コロナ禍となった第19期（令和2年～3年）は、大勢の人が集まるのが感染対策上良くないとの緊急事態宣言の発出を受け、講座の休止やリモート講座となったことから、令和2年と3年の2カ年にわたり実施いたしました。この第19期は、受講者27名でスタートしましたが、この大変なコロナ禍にあっても熱心に受講を続けて頂き18の方が修了されました。

修了生の皆様、本当にお疲れ様でした。

昨年、令和3年（2021年）11月時点で、多摩G V森木会の会員数は388人となっています。

多摩市グリーンボランティア講座初級のスケジュール					表-1
	開催日	目的・趣旨	主な講座内容	主な実習場所 (集合場所)	備考
入講式	12月 第2週土曜日 10:00~12:00	入講式 多摩グリーンボランティアの目的と位置づけの理解。	・多摩グリーンボランティアの位置づけ ・多摩市GV講座と多摩GV森会の位置づけ ・関係者の紹介 ・カリキュラムの案内	多摩市立GLC ライブホール	市長出席
第1回	1月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を知る。 ・山初めの風習を知る。 ・樹木の伐採を通じて雑木林の大切さを知る。	午前：雑木林を知る(1-1) (雑木林の成り立ち) ・準備運動 ・山初めの風習(神事) (多摩中央公園) ・萌芽更新、樹木伐採のやり方 ・樹木伐採、枝の整理 午後：雑木林を知る(1-2) (里山の暮らし、炭焼き窯) ・どろり山公園経由一本杉公園へ	多摩中央公園 (多摩市立GLC) 一本杉公園 (加藤家)	
第2回	2月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を知る。 ・冬の山仕事から、くず掃きとその利用法を知る。 ・ホダ木用材の伐採をする。 ・森会会の活動状況を見る。	午前：雑木林を知る(2) (冬の山仕事) ・準備運動 ・林床の下草刈り、くず履き、腐葉土置き場 ・使用道具の整理 午後： ・ホダ木用材樹木の伐採、萌芽更新、林床整理 ・使用道具の整理	よこやまの道 諏訪が岳 南野一丁目 鎌倉街道沿い緑地	
第3回	3月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の保全活動。 ・雑木林を創る。 ・伐倒機を活用する。 ・森会会の活動状況を見る。	午前：雑木林を知る(3) (雑木林の活用) ・準備運動 ・植え付け場所の草刈り ・苗木の植え付け 午後：ホダ木の整理、椎茸菌の植え付け ・腐葉土置き場づくり、くず掃き ・道具類片付け	豊ヶ丘の杜 (豊ヶ丘小学校体育館前) 豊ヶ丘小学校学校林 多摩市立GLC	
第4回	4月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を知る。 ・雑木林の生態系、生き物への知識を深める。 ・下草刈り、刈払機の使用を見学する。 ・森会会の活動状況を見る。	午前：雑木林を知る(4) (雑木林の植物などの生き物たち) ・準備運動 ・多摩市のみどり 午後：里山の生態系とマント・ソデ群落、下草刈り、整理 ・道具の手入れ、道具類片付け	和田なな山緑地 (なな山緑地)	市長出席
第5回	5月 第4週土曜日 9:30~15:30	○先進事例地視察 ・先進事例地を見学し、そのノウハウを学ぶ。 (八王子市長池公園 長池里山クラブ)	午前：雑木林を知る(5) (長池公園 長池里山クラブの活動) ・里山アダプトの活動 午後： ・活動状況の見学、活動参加	八王子市長池公園 (長池公園自然館)	
第6回	6月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を考える。 ・樹木の生態を知る。 ・植物観察を学ぶ。	午前：雑木林を知る(6) (やさしい植物生態を学ぶ) ・準備運動 ・植物生態を知る 午後：雑木林内の植物観察の方法 ・下草刈り、整理 ・道具の手入れ、後片付け	鶴牧西公園 (鶴牧西公園みどりの家)	
第7回	7月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を考える。 ・竹林の管理手法を学ぶ。 ・雑木林管理に向けた植生調査手法を学ぶ。	午前：雑木林を知る(7) (竹林の管理・篠竹の活用) ・準備運動 ・下草刈り、整理 ・道具の手入れ、後片付け 午後： ・植生調査(コドラート法ほか)	亀ヶ谷緑地 多摩中央公園 (多摩市立GLC)	
第8回	8月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を考える。 ・樹木の活力度を学ぶ。 ・土壌と土壌生物の働きを学ぶ。 ・一緒に活動する仲間を知る。	午前：雑木林を知る(8) (樹木活力度と土の中の生き物たち) ・準備運動 ・樹木の活力度をはかる ・林の土壌生物を知る 午後：みんなで楽しむみどりの保全 (芋煮を食しながら、一緒に活動する仲間づくりを図ります)	一本杉公園 (加藤家)	市長出席
第9回	9月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理手法の概略を考える。 ・雑木林管理の目標を立てるための植相調査を知る。 ・ホダ木の本伏せを知る。	午前：雑木林を知る(9) (雑木林の植物群落) ・準備運動 ・植生群落調査(管理目標のための植生調査) 午後：ホダ木の本伏せと観察 ・腐葉土の天地返し ・下草刈り、刈り草整理 ・道具の手入れ、後片付け	一本杉公園 (加藤家)	
第10回	10月 第4週土曜日 9:30~15:30	○雑木林の成り立ちから、管理計画を立てる。 ・管理目標を立てるための基本事項を知る。 ・合意形成による管理計画立案と発表。 ○修了式 森会入会説明(懇親会)	午前：雑木林を知る(10) (みんなで楽しむ雑木林活動) ・準備運動 ・管理活動計画の策定(林の将来像と年間活動計画) 午後：修了式 森会への入会説明	多摩市立GLC ライブホール	市長出席



第1期の講座風景
2002年3月



第19期の初級講座風景
2021年9月(鶴牧西公園とみどりの家(苔の土間))
雑木林の群落調査と調査結果の取り纏め、将来像検討のための結果発表

多摩市グリーンボランティア講座初級 受講者数（人）

表-2

講座年	受講者	修了者	森木会 入会者	備考
第1期・平成14年(2002)	40	32	30	
第2期・平成15年(2003)	40	31	31	
第3期・平成16年(2004)	40	29	22	
第4期・平成17年(2005)	34	33	23	
第5期・平成18年(2006)	33	25	18	
第6期・平成19年(2007)	34	27	19	
第7期・平成20年(2008)	30	23	17	
第8期・平成21年(2009)	30	26	18	
第9期・平成22年(2010)	42	36	25	
第10期・平成23年(2011)	21	16	13	
第11期・平成24年(2012)	29	25	21	
第12期・平成25年(2013)	33	26	26	
第13期・平成26年(2014)	38	32	29	
第14期・平成27年(2015)	32	31	31	
第15期・平成28年(2016)	28	26	24	
第16期・平成29年(2017)	19	15	15	
第17期・平成30年(2018)	29	27	26	
第18期・令和01年(2019)	22	16	14	
第19期・令和02年(2020) ～令和03年(2021)	27	18	18	コロナ感染対策で2 か年で実施
第20期・令和04年(2022)	18			講座実施中
合 計	619	494	420	

・中級講座

中級講座は、2005年（平成17年）7月から開始しました。中級講座の受講対象者は、多摩市GV講座初級を修了し、多摩GV森木会の活動の仕方などを理解して頂いている方、若しくは同等の知識や技術等を保持されている方を対象としています。中級講座では、刈払機やチェーンソーなど動力機械を使う作業について講座を行っていることから、動力機械を用いる講座については、労働安全衛生法に基づく「安全衛生教育」に準じた講習としています。さらに消防署の上級救急救命講習、樹木の適正な成長を助ける樹木剪定、仲間と一緒に安全に活動するためのリスクマネジメントやリーダーシップの講座を行っています。

近年、ボランティア作業中や農作業中の、刈払機やチェーンソー作業によるケガや事故がたいへん多く発生していることが農林水産省や消費者庁の国民生

活センターなどから注意喚起の案内が発表されています。

私たち多摩GV森木会は、あくまでも多摩市の公園緑地に位置する雑木林の維持保全を多摩市と協働して無償でボランティア活動を行っている市民団体ですが、自分自身の安全を守りつつ仲間の安全も見守りながら楽しく活動するために、刈払機やチェーンソー、高所作業等については「安全衛生教育」の内容に沿って講習を行っております。（表-3 参照）これまで17回の中級講座の受講者は249人、修了者は174人です。

中級講座は、その年だけで終了するのではなく、受講者の都合に合わせて受講できなかった講座回は2～3年かけて終了して頂くこととしています。また中級講座は、しっかり修得して頂きたいことから、受講者数を15人程度に絞って開催しています。受講者数が15名を超えている年は、その前年の受講者が

終了できず、翌年に繰越し受講をしている年です。コロナ禍となった第 16 期(令和 2 年)と第 17 期(令和 3 年)では、中級講座の講習内容上、受講者と近くに接しながらの講習となることから、第 16 期では 10 名の受講者、第 17 期では 7 名の受講者数に絞って講座を行いました。

中級講座の修了者は、それぞれの活動団体の運営に関わって頂いているとともに、活動の企画・立案・運営から活動者の安全の見守り、道具類の確認、安全管理担当者など、さまざまな役割を担って頂いています。中級講座の受講料も、初級講座と同じく 7 回の講座で年間 3,000 円です。また、中級講座のテキストも受講して頂き、説明を聞いて頂くことで、修得できる内容としていることから、このテキストだけを配布や販売することは行っていません。

興味のある方は、ぜひ初級講座を受講して頂き、その翌年に中級講座を受講してください。

多摩市グリーンボランティア講座の、初級、中級を修了したからといって、雑木林の保全育成のボランティア活動がすべて出来るようになるとは考えておりません。雑木林を保全育成するボランティアの活動方法にはさまざまな活動方法があり、これが正しい・絶対的なやり方、という方法は無いと考えています。

また私たちが活動している雑木林は、都市公園法の中で位置付けられた公園緑地内にあります。ここでは設置管理者である行政の考えや、その公園緑地を利用される市民の要望などもあります。都市における公園緑地の存在効用と利用効用にも配慮しつつ、これらを真摯に受け止めて、まずは安全に、楽しく、四季折々の自然を愛でるために、仲間と一緒に知恵を出し合いながら協働して、環境に配慮した順応的管理を目指して、心地よい汗をかくことが、望ましい活動のあり方ではないかと考えております。

○ 中級講座カリキュラム

表-3

第 1 回 7 月 第 1 土曜日 エコプラザ多摩 多目的ホール 時間 9 時 30 分から 16 時

・開講式 ・刈払機の安全な使用方法を学ぶ(講師:多摩グリーンボランティア森木会)

ボランティア活動の、もっとも基本となる草刈り作業において、刈払機を用いた草刈り作業について、自らの安全と周りの人にも安全が確保できる刈払機操作方法と、刈払機の保守点検方法を学びます。楽しい活動には、安全が全てに優先します。

第 2 回 8 月 第 1 土曜日 多摩消防署 8 時 45 分までに集合(時間厳守)

・活動に必要なファーストエイド(救命救急方法)を学ぶ(講師:東京消防庁)

私たちの活動は、安全・安心の中で、楽しみとやりがい、仲間づくり、自然のしくみを知ることが重要です。しかし、活動の中で傷害等が発生した場合には、正しい救急法を施し、早く医者に引き渡すことが重要です。AED 操作をはじめ様々な応急処置方法を学び、一緒に活動される方々から頼られる活動リーダーになることを目指します。

東京防災救命協会実施の上級救命講習の教材費 2,800 円が別途必要です。修了者には、東京消防庁より上級救命技能認定証が発行されます。

第 3 回 9 月 第 1 土曜日 一本杉公園加藤家 時間 9 時 30 分から 16 時

・樹木の剪定手法を学ぶ(講師:恵泉女学園大学 小林幹夫先生)

樹木の生態を知り、剪定手法の基本を学びます。四季折々の植物歳時記を楽しむとともに、良好な樹林環境を創出するノウハウを習得します。

第 4 回 9 月 第 1 日曜日 エコプラザ多摩 多目的ホール 時間 9 時 30 分から 16 時

第 5 回 10 月 第 1 土曜日 エコプラザ多摩 多目的ホール 時間 9 時 30 分から 16 時

第 6 回 11 月 第 1 日曜日 エコプラザ多摩 多目的ホール 時間 9 時 30 分から 16 時

・チェーンソーの安全な使用方法と樹木伐倒方法を学ぶ(講師:多摩グリーンボランティア森木会)

チェーンソーの構造とその安全な使用方法を学び、実際に樹木伐倒を行うことによって、実践的な使い方を習得します。多摩グリーンボランティア森木会では、この講座を受講された方だけがチェーンソーを使用した活動が可能としています。

第 7 回 11 月 第 1 土曜日 グリーンライブセンター 時間 9 時 30 分から 16 時

- ・ 雑木林管理のリーダーのノウハウを学ぶ (講師：多摩グリーンボランティア森木会)
- ・ 多摩市のみどりの状況 (講師：多摩市公園緑地課) ・ 修了式

ボランティア活動におけるリスクマネジメントやリーダーとして必要な知識などのノウハウを学びます。
 多摩市内の公園緑地には、多くの雑木林が残存しています。これらのみどりを楽しみながら、多くの市民の方々や多摩市と協力・共同して、生物の多様性が豊かで景観上も優れた居住環境として、次の世代に受け継げる環境資産としていく必要があります。そこで、多摩市のみどりの現状を知り、ボランティアのリーダーとして必要な知識を習得します。



第 1 期の中級講座風景



第 17 期の中級講座風景
2021 年 7 月, 10 月

多摩市グリーンボランティア講座中級 受講者数 (人)			
講座年	受講者	修了者	備考
第 1 期・平成 17 年 (2005)	15	7	
第 2 期・平成 18 年 (2006)	13	9	
第 3 期・平成 19 年 (2007)	11	6	
第 4 期・平成 20 年 (2008)	5	2	
第 5 期・平成 21 年 (2009)	16	13	
第 6 期・平成 22 年 (2010)	13	7	
第 7 期・平成 23 年 (2011)	19	17	
第 8 期・平成 24 年 (2012)	14	12	
第 9 期・平成 25 年 (2013)	16	10	
第 10 期・平成 26 年 (2014)	23	17	
第 11 期・平成 27 年 (2015)	19	16	
第 12 期・平成 28 年 (2016)	18	14	
第 13 期・平成 29 年 (2017)	18	8	
第 14 期・平成 30 年 (2018)	14	9	
第 15 期・令和 01 年 (2019)	18	13	
第 16 期・令和 02 年 (2020)	10	8	
第 17 期・令和 03 年 (2021)	7	6	
第 18 期・令和 04 年 (2022)			
合 計	249	174	

表-4

～多摩市みどりのかわら版～

市民自慢の「多摩セントラルパーク」を目指して

多摩市 環境部長 小柳 一成

本年4月に環境部に異動してきました小柳と申します。よろしくお願いいたします。

グリーンボランティアの皆様、恵泉女子学園大学様、日頃からグリーンライブセンター（以下、「GLC」と記述）や多摩中央公園の魅力向上にご協力くださりまして、誠にありがとうございます。

私は、市外在住ですが生まれてからずっと多摩センター駅を最寄駅としており、勤務先も多摩市なので、多摩市民の方よりも多摩中央公園を利用させていただいていると思います。特に、GLCは、バオバブをはじめとした珍しい植物があることに加え、春と秋に見ごろを迎えるバラなど、四季折々の草花を家族で楽しませていただいています。そういえば、20数年前、GLCが「眠れる森」というドラマの撮影現場となっていた際には、中山美穂さん・陣内孝則さんを5mほどの近距離で見ることができたことも良い思い出です（お二人とも、本当にキラキラしていました）。

現職となり、多くの思い出と思入れのある多摩中央公園の大規模改修に携わることができ、非常に嬉しく感じています。今回の大規模改修に向けては、平成30年から多くの市民の皆さんにもご参画いただき、アンケート調査やワークショップ、社会実験などを重ねながら改修基本方針をまとめました。その基本方針を基に、実際の改修工事と改修後の公園運営は民間事業者が担う手法を導入します。

改修では、これまでガタガタして急な坂が多かった園路をベビーカーや車いすでも利用しやすく改善し、開園当初に作った中央公園の様々な「しかけや魅力」

を再発見できるようなサインや公園ガイド機能の追加などを予定しています。更に、来園者の利便性を向上する多目的活動スペース（「ケヤキハウス」といいます）やフラワー&ベーカリーカフェ、魅力的な大型遊具、来園者とともに作るプレーパークなどの設置も計画されています。もちろん、GLCも建屋の機能を高めるとともに、ガーデン部分の利活用度を向上させる改修を計画しています。

今回の改修を契機として、より多くの方に憩い・活動・学びの拠点としてご活用いただき、それが多摩市の魅力やまちの回遊性の向上につながり、市民自慢の「多摩セントラルパーク」となることを目指しています。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。



多摩中央公園から多摩セントラルパークへ。期待が高まります！

表紙の絵

「ミヤマナルコユリ」絵・内城葉子

花は黒紫色で葉に隠れて咲く地味な花です。名前は多摩丘陵で発見された由来によります。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

編集後記 ～ふたつとないもの～

先日、3年ぶりに連絡会講座「夜の雑木林観察会」を開催しました。多摩中央公園の夜の雑木林を文字通り歩き回り、出会った生き物を観察します。

生き物の多くは夜の間に生を受けるようです。この日もたくさんのニイニイゼミやブラゼミの羽化を見ることが出来ました。

(まつ)



ようこそ

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 46 号

発行日：2022年8月20日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>